

## ハバククの預言

ハバククは、紀元前五八七年にエルサレムが滅亡する直前の、ユダの最後の時代に活躍しました。彼は降りかかる運命を思って、二つのことに悩みました。すなわち、なぜ神様はユダの国を敵の手に渡すのか、また、なぜユダをその罪のために罰しながら、バビロンのような罪深い国の存在を許すのか、でした。神様はハバククの疑問に答えて、幻の中でご自身をお示しになりました。神様の存在についての新しい洞察から、ハバククは自分の不十分さを知り、その暗き時代に、何ものにも動かされない力をもって生き抜く勇気を与えられたのです。

—

1 これは、幻のうちに、神様から預言者ハバククに示されたお告げです。

2 神様、助けを求める私の祈りに、いつになったら耳を傾けてくださるのですか。何のお答えもないので、私はむなしく叫ぶばかりです。「助けてくれ、人殺しだ」といくら叫んでも、だれも助けに来てくれません。3 私を取り囲んでいる罪と悲慘を、いつまで見続けなければならないのですか。

どこもかしこも不正な権力と金力がはびこり、人は好んで議論や争いにふけています。

4 法は無視され、法廷では正しい裁きが行なわれません。悪人が正しい人の上にのさばり、贈賄や詐欺が公然と行なわれているからです。

5 神様はお答えになりました。「よく見ろ。わたしが今しようとしていることを知ったら、おまえは肝をつぶすだろう。それは、おまえが生きているうちに起こる。聞いただけでは、とても信じられないようなことだ。6 地上の新しい勢力として、カルデヤ人〔アッシリヤに対抗してバビロニア帝国を築いた民族〕を起こす。残忍で横暴なこの国民は、世界を踏みにじり、次々と征服する。7 その残酷さは世に鳴り響く。彼らは、やりたいほうだいのことをするが、だれも止めることができない。8 その馬は豹よりすばやく、国民の狂暴さは日暮れの狼もかなわないほどだ。騎兵は、驚が急降下して獲物に飛びかかるように、はるかかなたから得々と突き進んで来る。9 刃向かおうとした者もみな、その姿を見るなり、おびえて戦う気力を失う。まるで砂でも集めるように、彼らは捕虜を集める。

10 彼らは王や王子をあざけり、要塞をも鼻であしらう。城壁に向かっていとも簡単に土を積み上げ、それを占領してしまう。11 風のようにさーっと襲い、すばやく引き揚げて行く。だが、彼らの罪はとてつもなく重い。その力は自分たちの神々から与えられた、と言いはるからだ。」

12 ああ、私の神様、聖なる永遠のお方よ。私たちを地上から抹殺するために、このような計画をお立てになったのですか。断じて違います。ああ、私たちの岩である神様。神様は、恐ろしい罪を犯した私たちを懲らしめ、正しい者にしようとして、カルデヤ人を起こされたのです。13 私たちは確かに悪いのですが、彼らはもっと悪いのです。ど

んな罪をも見のがさない神様は、私たちがのみ込まれてしまうのを、ただそばに突っ立って、見ておられるのですか。 極悪人どもが、彼らよりましな者を痛めつけるのを、黙って見過ごされるのですか。

14 私たちは、捕らえられて殺される魚にすぎないのですか。 敵から守ってくれる指導者がいないので、おずおずとはい回る虫けらにすぎないのですか。 15 彼らは楽しみながら、私たちをつり針でつり上げたり、網で捕らえてしまうのですか。 16 そうであるなら、彼らはその網を拝み、その前で香をたいて、「これが、われわれをこんなに豊かにしてくれた神々だ」と言うでしょう。

17 いつまでも、こんなことをさせておくのですか。 これからも、彼らは情け容赦なく戦い、勝ち抜いていくのでしょうか。

## 二

1 見張り台に登り、神様が私の訴えにどう答えてくださるかを見ていると、 2 神様はこうお語りになりました。 「板に、わたしの答えを書き記せ。 それを見る者がひと目でもわかり、ほかの者にすぐ伝えられるように、大きな字で、はっきり書け。 3 だが、わたしがしようとしていることは、今すぐには起こらない。 ゆっくりと、少しずつ、しかも確実に、実行に移される。 遅いように思えても、失望するな。 必ず計画どおりになるのだ。 忍耐して待て。 ただの一日も、遅れることはない。

4 さあ、今から言うことをしっかり頭にたたき込め。 [カルデヤ人がそうするように]、悪者は自分だけを信頼し、ついには滅びる。 だが正しい人は、わたしに信頼することによって生きる。 5 おごり高ぶったカルデヤ人は、自分たちのぶどう酒によって裏切られる。 ぶどう酒は人を欺くものだからだ。 彼らは貪欲で、まるで死や地獄のように、多くの国を自分のもとかき集めても、なお飽き足らない。 6 捕らえられた者たちが、そういう彼らを物笑いの種にする時がくる。 『強盗ども。 とうとう年貢の納め時がきたな。 人を苦しめたり、かすめたりした当然の報いを受けろ！』

7 突然、おまえが借金していた者たちが、怒り狂って刃向かい、おまえの持ち物を奪い取る。 その時、おまえはなすすべもなく立ち尽くし、ただ震えている。 8 おまえは多くの国を滅ぼした。 今度は、彼らがおまえを滅ぼす番だ。 人殺し。 おまえは、すべての町も田舎も、めちゃめちゃにしてしまった。

9 不正な手段で富を得ながら、自分だけは災いから逃れようとしている。 そういうおまえは、のろわれよ！ 10 自分が犯した殺人の罪で、自分の名をはずかしめ、いのちまで失うのだ。 11 まさに、おまえの家の石壁が、おまえを訴えている。 天井の梁までが、それに同調している。

12 流血と強奪で得た財貨で、町を築き上げようとしている。 そういうおまえは、のろわれよ！ 13 わたしは、神に逆らう国民の利益を、彼らの手の中で灰にする。 彼らがどんなに精を出しても、すべてが水の泡だ。

14 海が水で満たされているように、全世界が神の栄光を知ることによって満たされる時がくる。

15 まるで酔っぱらいをこづくように、近隣の国々をよろめかせ、その裸の姿を眺めて、楽しもうとしている。　そういうおまえは、のろわれよ。　16 やがて、おまえの全盛時代は終わり、はずかしめられる。　おまえこそ、神のさばきの杯を飲み干すがいい。　よろめいて倒れよ。　17 おまえはレバノンの森を切り倒した。　が、今度は、おまえが切り倒される番だ。　また、罠で捕らえた野獣をひどい目に会わせた。　が、今度は、おまえがひどい目に会わされる番だ。　至る所の町々で、殺人と暴虐をほしいままにした報いだ。

18 人間が作った偶像を拝んで、何の得があるのか。　そんな物が助けになるなど、うそっぱちもはなはだしい。　自分の手で作った物を信じるとは、なんてばか者だ。　19 いのちのない木の偶像に救いを求める者も、もの言わぬ石に教えを請う者も、のろわれよ。　偶像は、神の代わりに語ることができるか。　金や銀で美しくおおわれてはいるが、その中にいのちはないのだ。」

20 しかし、神様は、ご自分の聖なる神殿におられる。　全地よ、その御前に静まれ。

三

1 これは、ハバククが神様の前で歌い上げた、勝利の祈りです。

2 神様。　今、私は、神様の評判を聞きました。　神様が行なおうとしておられる恐るべきことを知り、恐れをもって御前にひれ伏しています。　この困難な時代に直面している私たちを、以前のように助けてください。　神様の御力を示してください。　御怒りの中にも、あわれみを忘れないでください。

3 見なさい。　神様がシナイ山から砂漠を横切って来られます。　神様の輝きが天地に満ちています。　栄光は天に満ち、神様への賛美が地にあふれています。　神様は、なんとすばらしいお方でしょう。

4 御手からは、まばゆいばかりの光が放たれます。　神様は恐るべき御力を秘めておられます。　5 ペスト菌が神様の前を進み、あとから、恐ろしい伝染病がびったりとつき従います。　6 神様はしばらくの間じっと立ち止まり、地上を見渡しておられます。　やがて国々を揺り動かし、今まで、びくともしないように見えた山々を打ち砕き、丘を平らになさるのです。　御力は変わることがありません。　7 見なさい。　クシャンとミデヤンの人々は、恐れおののいています。

8 9 神様、川を打ち、海の水を左右に分けたのは、お怒りになったからですか。　それとも、川や海に不満をいだかれたからですか。　とんでもありません。　神様は救いの戦車を遣わされたのです。　すべての人が、はっきり御力を見たのです。　その時、神様がお命じになると、泉がわき出ました。　10 山々はそれを見て、震え上がりました。　激流がどっと押し寄せ、底知れぬ深い淵が降伏の叫びをあげました。　11 得意満面だった太陽や月も色を失い、神様の矢から発する輝きと、きらりと光る槍のひらめきとで、すっかりぼやけてしまいます。

12 神様は憤りに燃えて地を行き巡り、御怒りで国々を踏みつけてしまわれました。　1

3 ご自分が選んだ民を救うために出て来て、悪者どもの頭をたたき割り、頭のでっぺんから足のつま先まで、その骨をさらしものになさいました。 14 イスラエルなど物の数ではないと、つむじ風のように押し寄せて来た者たちも、自らの武器で滅ぼされてしまいました。

15 神様の騎手たちは、海を渡って行進しました。 さかまく海は、せき止められたように高くもり上がったのです。 16 これを聞いて、私は震え上がり、歯ががくがくしています。 足もとがふらつき、ぶるぶる震えています。 それでも、私たちを襲った者たちに苦しみが襲いかかる日を、静かに待ちましょう。

17 いちじくの木が枯れて花も実もつけず、オリーブの木も実りがなく、畑が荒れたままになっても、また、羊の群れが野で死に絶え、家畜小屋がからっぽになっても、 18 私はなお、神様を信じて喜びます。 私を救ってくださる神様に感謝します。 19 神様は私の力です。 神様は私を鹿のように速く走れるようにし、山々を安全に越えさせてくださるのです。

(聖歌隊の指揮者へ。 この詩は弦楽器に合わせて歌うこと。)

■